

蒜山の森におけるミュージアム（博物館）整備

鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター蒜山の森：技術職員 米田亜沙美

鳥取大学では、2019年度から、それまで人目にふれる機会のなかった資料室を『蒜山ミュージアム』として整備してきました。展示物として、蒜山の概要や気象条件を説明するポスターや、夏緑樹林帯と照葉樹林帯の解説、今日までの蒜山の植生の遷移・かく乱を年表で表し、加えて、教育研究林の概要や沿革を開示しています。また、戦前の測量機器、昆虫・植物標本や木材資料、拡大造林時代からの貴重な写真と、現在の研究利用に関するポスター等を展示しています。

ミュージアム入口では、蒜山での学生実習やセミナーの写真で構成された、モザイク壁画のブナの大木が入館者をお迎えします。ほぼ全ての展示物は、職員の手作りでできており、迫力のあるウルトラザウルスロボのオブジェに、レトロな六分儀やムカシブナの化石など、入口だけでも多くの見所があります。

学生実習では、フィールド調査前に展示室を見学することで、教育研究林の気象条件や広葉樹に関する理解を深めることが可能となり、特に初めて教育研究林を利用する2年生への導入として、非常に役立っています。さらに、2019年度に森林管理に関する新たな試験地を設置しており、実際に現地を見る前に、林業の歴史や、今後の施業方針についてポスターを見ながら解説できるため、事前学習の場ともなっています。豊富にある植物標本や木材資料を自由に手にとって見ることで、多面的に森林に興味を持つきっかけとなっており、これまで以上に限られた実習日程において、非常に意義のある施設です。

本年度も大幅な施設整備を計画しており、さらに充実した内容となるよう、職員の手作りで改修を行っていく予定です。また、随時企画展を行っており、展示内容を変更して来館者を楽しませる構成となっています。鳥取大学教育研究林蒜山の森にお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。



ミュージアム入口階段



ミュージアム展示室